

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	田雜 瑞穂
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題 目 臨床的腋窩リンパ節転移陽性乳癌に対する術前化学療法後 腋窩リンパ節郭清省略の可能性 掲載誌 聖マリアンナ医科大学雑誌 2021 (印刷中) 主査 太田 智彦 副査 榎本 武治 副査 久慈 志保
	[論文の要旨・価値] 現在、臨床的腋窩リンパ節転移陽性 (cN+) と診断された後に術前化学療法 (NAC) を施行した乳癌に対しては、腋窩リンパ節郭清 (ALND) を施行するのが標準治療だが、術後の病理診断で化学療法により転移が消失 (ypN0) している症例も多く、そのような症例には ALND を省略できる可能性が高いが、手術前に ypN0 を予測することは必ずしも容易ではない。これに対して本研究は術前の臨床所見および針生検検体の病理学的所見から ypN0 を予測し得る因子を探索している。2013～2017 年に cN+ と診断され、NAC および ALND を施行された初発乳癌患者 278 例について後方視的に検討した結果、196 例 (70.5%) が NAC 後に画像上腋窩リンパ節転移が陰性となり (ycN0)、そのうち ypN0 は 137 例 (69.9%) であった。そこで ycN0 症例の中で、ypN0 の正診率が高いサブコホートを抽出したところ、原発巣の臨床的完全奏功 (cCR) 群 (正診率 93.4%)、NAC 前針生検検体のエストロゲン受容体(ER) 陰性群 (正診率 93.4%)、プロゲステロン受容体 (PgR) 陰性群 (正診率 89.1%) および HER2 陽性群 (正診率 86.1) で ypN0 の正診率が高く、多変量解析の結果、cCR (OR 5.57, P=0.0032)、PgR (OR 3.23, P=0.0189) および HER2 (OR 3.32, P=0.0046) の 3 つの因子が有意な ypN0 予測因子であった。また、ycN0 と診断された 196 例中 21 例 (10.7%) に再発を認めたが、ypN の有無と再発の間には有意な相関は認めなかった。以上より ycN0 の ypN0 正診率 (69.9%) は ALND を省略するには不十分であるが、cCR、PgR および HER2 を予測因子として加えることにより、安全に ALND を省略できる可能性が示された。ALND はおよそ半数の症例で何らかの上腕浮腫を伴い、重症例では QOL を著しく低下させることから、これを避けうる方法を示した点で本研究は臨床的に非常に価値の高い論文である。
	[審査概要] 学位審査は令和 4 年 3 月 1 日、陪席者 1 名のもとに行われた。約 25 分間の PC を用いた発表の後、約 40 分間の質疑応答が行われた。質疑応答では、ycN0 の判定方法および正診率の妥当性、病理検体の処理方法、微小転移の取り扱い、ycN0 と ycN+ の群に分けて解析するのではなく、ycN0 も 1 つの因子として扱うべきではないか、などの質問があったが、おおむね適切に回答した。現在投稿中の論文を含め、今後の研究の展望を明示してさらに実地臨床への応用に対する熱意が感じられた。
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 当該研究領域における背景、問題点および本研究の位置づけと意義をうまく説明し、領域に関する質問にも概ね的確な回答をすることができた。画像診断、病理診断、統計学的解析に関する質問にも適切な回答が得られた。英語読解力に関しては引用文献の一部の和訳を行い、十分な読解能力を持つことが示された。態度、人柄にも優れ、研究能力、学識、研究意欲を総合的に考えた結果、学位授与に値すると判断した。	